



皆さん、こんにちは！今月も弘法さんの日がやってきまして。あつという間に一ヶ月が過ぎてしまいますね。

さて、先月号では「お遍路さんの衣装」についてご説明しました。白装束で行脚する由来もお分かり頂けたかと思えます。今月は、ちよつと変わった行事が行われている札所についてご紹介させて頂きます。

―日本最小の八十八カ所霊場―であるここ覚王山日泰寺周辺の巡礼地は、小さな祠が単に並んでいるだけではなく、一軒軒独立したお堂となっており、毎月二十一日になるとそれぞれ管理者の方が「お接待」をしてくださいます。番外の祠や、一部の祠は日泰寺が管理して下さっているとも聞きますが、基本的には、各札所ごと「お接待さん」がいらつしや、あくまでも自主管理をされているようです。今風に言え

ば、ボランテイアです。それの「お接待さん」さん、相互の交流はあまさんなよ、版「編集部」としては、今後、「お接待さん」相互のネットワーク作りにもお役に立ちたいと思えます。

「焙烙(ほろく)灸って何？」

常連の参拝客の方々の中には、ほとんどが一円五銭(「ほとんどが全部の玉」)を意し入れて、全部所の賽銭箱に入れていく方もいらっしゃるや、それだけでなく各札所では、お接待さん凝らしたお接待をなさいます。お接待をサ一ビスして、お接待もあたります。珍らしいお接待の「ほろく)灸」というものが

「焙烙灸」の由来は、昔、炎、天下で暑さを感じたが、たところ、うち灸をすえたと、うた、話、す、を、の、の、な、容、器、培、烙、皿、を、頭、に、な、さ、を、炊、い、て、灸、を、す、る、こ、

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚和半事務所

☎052 757 1955

Kouhei@oh-kouhei.org

とを「焙烙灸」と言うようになりました。そして、弘法大師がこの「焙烙灸」の効能を熱心に説いたと言われている。

その結果、全国各地のお寺や巡礼地で、一年で最も暑い盛り、「土用の丑の日」や弘法大師のご縁日（毎月二十一日）に「焙烙灸」を行おうようになったそうです。

この覚王山巡礼地において、編集部が確認できた「焙烙灸」を行って来たのは、焙烙灸十七番札所（日泰寺東側）です。ほかにもあるかもしれませぬ。

医学的には、頭の上に「百会（ひゃくかい）のツボ」と言われる「ツボ」があるそうです。「焙烙灸」はその「百会（ひゃくかい）のツボ」に灸をして刺激すること、で、脳の活性化、ボケ防止、夏バテ防止をはじめ、心身の健康に對して効果があると言われている。そのため、「焙烙灸」は無病息災、身体健全を祈願する**お加持（おがじ）（祈禱）**となつています。弘法大師は医学的な知識もあつたのかもしれない。

「八十八カ所」の由来

ところで皆さん、過去の「八十八」と巡礼地には「十」か「一」とか「三十三」として最も一般的な「八十八」とか、いろいろんな数があること

をご紹介しました。覚えていらっしゃるでしようか。さて、「八十八カ所」の由来は何でしようか？ いろんな説がありすが、「米」の文字から、**五穀豊稔を祈念する数字**であると言われたり、**厄年の合計**（男四十二、女三十三、子供十三）とも言われています。真相は何でしようか。では、その他の数（十七とか三十三）にもそれぞれ由来があるのではありませんか。「お遍路」は奥が深いですね。興味が尽きません。

それでは皆さん、また来月お会いしましょう！！



87 番札所の焙烙灸